

利根川



VOL. 22

2004 1月号

利根川水系農業水利協議会
群馬県支部情報紙

編集・発行 利根川水系農業水利協議会群馬県支部
〒371-0837 群馬県前橋市箱田町350
027-251-4105

会員施設紹介コーナー



板鼻堰土地改良区 (板鼻堰頭首工・土砂吐・養魚池・災害記念碑)

板鼻堰用水の取水施設は昭和10年9月の大水害で、堰堤及び導水路の全てが流失や埋没し、流路が変わって取水不可能となったため、頭首工の位置を現在の碓氷川、九十九川合流点に移し、埋没した導水路に径1.2mのヒューム管を850m敷設するなどの大工事を行い完成したものです。その後、昭和22年9月の大災害によって欠壊流失した頭首工の復旧を県営災害復旧工事で行い、更に平成7～12年にかけて維持管理適正化事業により頭首工、余水吐、土砂吐等の改修並びに各ゲートの電動化工事を実施し今日に至っています。

板鼻堰用水には、準用河川大谷津川や小河川の道城川などが流入しており、豪雨の都度氾濫し流域に被害を及ぼしましたが、継続して行っていた水害対策工事が平成12年度を以て、3ヶ所の排水ゲートが完成し、以来水害はなくなっています。

また、板鼻堰用水は養鯉に最適であり、明治29年に堰の水を池に取り入れた流水式養鯉が全国で初めて開発され、以来百余年にわたり高密度飼育の面積割生産高では、全国一の実績を上げています。



板鼻堰頭首工



土砂吐



養鯉池



昭和10年(左)・昭和22年(右)
災害復旧記念碑

みどり
広めよう! 土地改良区の愛称「**水土里ネット**」

邑楽土地改良区（邑楽第一排水機場）



邑楽第一排水機場は、昭和34～48年に実施された県営邑楽東部土地改良事業により造成され、昭和39年から稼動しており、今も邑楽東部地域では農業排水としてなくてはならない重要な施設です。

この施設は、板倉川から毎秒20.5トン渡良瀬川（遊水池）排出し、直径1200mmのポンプが6台設置され、しかも当時としてはめずらしい直列・並列がそれぞれ出来る構造になっています。しかし、40年余りを経た現在では老朽化は否めず、ポンプ能力の低下、施設の維持管理費等が増大してきたため、今回新しく国営総合農地防災事業（農林水産省）により、平成15年度から新設工事が着工され、平成17年度の完成が待ち望まれています。



排水機場 概観状況



排水機場 内部
ポンプの設置状況

用語解説コーナー

処分権者が異なる複数の水利権について

一つの事業地区で、処分権者が異なる複数の取水口がある場合の手続きはどのようにすればよいのか？

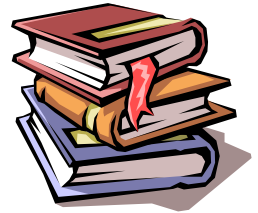
一つの事業地区で処分権者が異なる複数の取水口がある場合は、水利内容が相互に関連するのが一般的なため、全体を説明しながら、当該部分をそれぞれ複数の処分権者と協議します。

なお、水利使用がそれぞれ独立しているような場合は、該当の処分権者へ単独でそれぞれ協議（申請）してもよいことになります。

処分権者とは：国土交通省、県河川課等を指します。



水に関するコーナー



ビオトープとは

ビオトープはギリシャ語のBios(生命)+Topos(場所)が、ドイツ語のBio(生き物)+Top(場所)を意味する言葉として"Biotop"と書き、日本語では『多様な動植物が生息・生育する空間』と訳されています。

ドイツをはじめ欧州では20数年前から将来を見据えて生態系の保護、つまり「ビオトープ」の保全が積極的に行われており、日本でも1993年頃から、河川敷や公園などでビオトープの造成が実施され、マンション等の建設にもビオトープを取り入れるところも現われてきました。

自然の復元型、あるいは創造型ともいえるビオトープは、日本の伝統的な農村環境の姿そのままといっても過言ではありません。日本の各地にある農村は、生態学的にみてもたいへん生物が多様で、人間と自然、動物が共存している優れた環境だという事実が世界的にも認められています。

しかし、ビオトープが意味することは、単に「昔に戻れ」ということではなく、これからの時代をつくっていくための智恵なのだという事を忘れてはなりません。

では実際にビオトープとはどのようなことを指すのか？例えばシオカラトンボが卵を産み、ヤゴが育つ小さな池はシオカラトンボのビオトープといえます。しかし、トンボは小さな池だけで一生を過ごすわけではないので、成長段階や季節ごとに様々なタイプのビオトープが必要になってきます。するとヤゴの小さなときの小さな池もトンボになってからの生息域も全てビオトープということになってきます。

そこで、もう少し大きく考えていくと、トンボが飛んでいく森林や湖沼・草地・河川湿地・岩場・砂地など、その地域に住むさまざまな生き物が地域固有の自然生態系を構築していればすべてビオトープといえるわけです。つまり、色々な種類の生き物が、自分の力で生きていくことのできる自然環境をそなえた場所を、ビオトープと呼んでいます。

小さなビオトープから大きなビオトープまで、また比較的自然度の低いビオトープから、自然度の高い多様なビオトープまで多くの解釈がなされるようになってきています。

施工前



数十年前にU字フリュームで改修された。

施工中



この流路を自然に近い形態に変えるきっかけは、新しい住宅地区のための洪水防止対策を目的とする排水路の改良であった。

施工後



5年後には、自然に近い状態としての基本的な要素である多様な形態の河床と、雑木林による岸辺の植生が出現した。

利根水系連絡協議会 群馬県支部 現地研修が 平成15年11月6日に開催されました。

開催日時：平成15年11月6日（木曜日）

参加者：28名

研修場所：奈良俣ダム、綾戸ダム

奈良俣ダムの現地研修内容について（利根郡水上町藤原）

講師：水資源機構 沼田総合管理所 奈良俣ダム管理所 所長 川上忠雄

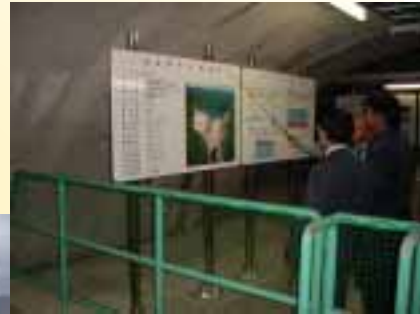
・会議室にて川上所長より奈良俣ダムの概要説明をしていただき、質疑応答をした後、二班に分かれダム内部に入り説明等を受けました。



会議室にて



虹のかかるダムの風景



ダム内部にて

綾戸ダム（群馬用水取水口）現地研修について（沼田市岩本町）

講師：水資源機構 群馬用水総合事業所 管理課 課長 高野寿雄

・綾戸ダムにて、高野管理課長よりダム及び群馬用水取水口の概要を説明していただきました。

綾戸ダムにて



説明状況



群馬用水取水口

